【注意】

この問題はマークシート問題と記述式問題とにわかれています。設問部分に「記」とあるものは記述式問題、「マ」とあるものはマークシート問題です。マークシート問題・記述式問題ともにそれぞれ全問が通し番号になっていますが、記述式問題は設問ごとに個別にわけた解答欄となっています。それぞれ所定の用紙・箇所^①に解答を記してください。

第1問 次の文の傍線部の読みを、送りがなを含め「ひらがな」で書きなさい。(慣用読みは正解としない)

記1 年長者にたいして恭しい態度で接するよう指導する。

記2 困難な問題としっかり対峙することを学生に促した。

記3 予想外の事態に直面し、当初の目論見が完全に外れてしまった。

記4 この作家の小説に対しては換骨奪胎ばかりだとの専門家の批判がある。

第2問 次の漢字(送りがなを含む)の読みが正しければマーク欄「1」を、誤っていればマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

マ1 懇ろ〔むしろ〕

マ2 滲む〔にじむ〕

マ3 嘲弄〔ちやうろう〕

マ4 仔細〔さいさい〕

マ5 日和見〔ひわみ〕

第3問 次の文の傍線部の「漢字」表記として正しいものをひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ6 スタッフ間のカクシツが深まっている。

マ7 看護師の仕事はタキにわたる。

マ8 職場のこれまでのカンコウに従う。

〔1〕革執	〔2〕画執	〔3〕確執
〔1〕多企	〔2〕多岐	〔3〕多軌
〔1〕管行	〔2〕慣行	〔3〕関行

第4問 次の文の傍線部のカタカナを文意に即して「漢字」で正確に書きなさい。各設問には異なる熟語が入ります。また、同じ解答が複数箇所に書いてある場合はすべて誤りとしてます。

記5 院内にフシンな者が立ち入った。

記6 患者の苦痛を軽減するようフシンした。

記7 この半年ほど成績がフシンであった。

第8問 慣用表現を用いた次の文の空欄には、それぞれ身体の部位をあらわす漢字一文字が入ります。文脈から判断してもっともふさわしい「漢字」一文字を正確に記しなさい。同じ漢字を複数回使用することはできません。

記13 したり「 」で自分の業績をひけらかすことは慎みたい。

記14 薬剤の効果で症状が安定し、スタッフ一同「 」をなでおろした。

記15 この犯罪者は、病に苦しむ多くの人びとを「 」先三寸でだましてきた。

第9問 次の傍線部のかなづかいが正しければマーク欄「1」を、誤っていればマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

マ15 ちりじり（散り散り）になる

マ16 ふくぢ（服地）を染める

マ17 計画が行きずまる【注】漢字表記略

マ18 とおか（十日）にわたる入院

第10問 論述には、常に論理的に正しいものと、常に正しいとはかぎらないものとがあります。次の文章が論理的に常に正しければマーク欄「1」を、常に正しいとはかぎらなければマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

【注】「ゆえに」の前の二つの文の叙述内容は常に正しいものであると仮定します。また、叙述の内容が実社会の現実と合っているとはかぎりません。

マ19 病棟実習には1年生の生徒は参加できない。生徒Aは病棟実習に参加できる。ゆえに生徒Aは1年生以外の生徒である。

マ20 この高齢者施設の口腔ケアはいつも水曜日におこなわれる。今日は水曜日である。ゆえに今日、この高齢者施設では口腔ケアがおこなわれる。

マ21 教室にはすべて内線電話がある。この部屋には内線電話がある。ゆえにこの部屋は教室である。

第11問 次の文と論理的に同じ内容となる文を選択肢からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

【注】叙述の内容が社会の実態と合っているかどうかを問うものではありません。

マ22 この病院では、すべての診療科に女性の医師が勤務している。

「1」女性の医師が勤務している診療科であれば、それはこの病院の診療科である。

「2」この病院の診療科以外はすべて、女性の医師が勤務していない。

「3」女性の医師が勤務していない診療科であれば、それはこの病院の診療科ではない。

第12問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

ほとんどすべての病気のばあい、皮膚の機能は、多かれ少なかれ、不調をきたしている。しかも多くの重篤な疾患のばあい、排泄はほとんど全面的に皮膚を通して行われる。これはとくに、子供のばあいにいちじるしい。ところが、皮膚からの排泄物は、身体を洗うか衣類に吸着させるかして取り除かないかぎり、付着したままそこに留まるのである。看護師は常にこの事実を念頭に置いておくこと。なぜなら、病人の身体を不潔なままに放置したり、あるいは病人に汗やその他の排泄物が浸み込んだ衣類を着せたままにしておくことは、健康をもたらず自然の過程を妨げて患者に害を加えることになるからである。それはちようど、身体にゆつくりと作用する毒物を、病人の口から飲ませているのと同じ結果となる。皮膚から与えられた毒物は、口から与えられる毒物と同様、確実にその作用を現わす。ただその作用が表に出てくるまでに時間がかかるというだけの違いである。

皮膚をていねいに洗ってもらい、すっかり拭ってもらったあとの病人が、解放感と安らぎとに満たされている様子は、病床ではよく見かける日常の光景である。しかし、そのとき病人にもたらされたものは、たんなる解放感や安らぎだけではない、ということ忘れてはならない。事実、その解放感や安らぎは、生命力を圧迫していた何ものかが取り除かれて、生命力が解放された、まさにその徴候しほのひとつなのである。したがって看護師は、患者の身体の清潔に関する世話を、どうせちよっと気分が良くなるだけのことから、時間がずれても同じこと、などという口実のもとに、何かの後まわしにするようなことを絶対にしないことである。

管理の行き届いている病院においては、この種の世話せわは必ず実施することになっているし、またきちんと実施されている。しかし在宅の病人においては、一般にあまりきちんとは実施されていない。

病人の肺と皮膚から排出される病的な悪臭を除去するためには、ひたすら換気しつづけることよって病人のまわりの空気を絶えず新しくしておかなければならないが、それとまったく同様に、皮膚に分布する小さな孔あなも、その排泄物によって塞がれてしまわないよう、絶えず排泄物を除去しておかなければならない。換気も皮膚の清潔も、その目的はほとんど同一である。――すなわち、身体から有害物質をできるだけすみやかに取り除くことなのである。

皮膚をスポンジ拭きしたり、洗ったり、清拭したりするばあいは常に、一度にあまり広い皮膚面を露出しないようにして、なるべく発汗を抑えるように注意すること。こうしたばあいの発汗は、別のかたちで新たな害をもたらすことになりかねないからである。

フロレンス・ナイチンゲール『看護覚え書（改訳第7版）』湯楨ます ほか訳（現代社）

マ23〜28 次の各文が本文の内容と合っていればマーク欄「1」を、合っていない、もしくは本文に該当する記述がない場合はマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

マ23 病院であれ在宅であれ、患者の清潔を保つ世話はきちんと実施されている。

マ24 皮膚からの排泄物を拭わずそのままにしておくことは、病人に毒物を飲ませているのと同様の結果を招く。

マ25 きちんと清拭された患者の感じる解放感、換気がもたらす解放感と同じくらい大きい。

マ26 口から与えられる毒物は、皮膚からの毒物よりも作用がはやくあらわれる。

マ27 皮膚の清潔のために洗浄や清拭をするばあいは、できるだけ広い範囲にわたっておこなうことが望ましい。

マ28 重篤な疾患をかかえる患者の排泄は、皮膚よりも肺を通じておこなわれる割合のほうが高い。

第13問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

児童養護施設に入所している子どもには、親の離婚や失踪、そのことがきっかけによる転居などを、生後の数年間のうちに何度も経験している割合が非常に高いことを前章で明らかにしました。引越回数の多さは、たんに生活している場や住まいなどの外的な環境が変化することだけを意味するものではありません。それは、親以外の人間関係の断絶や、新たな人間に出会い関係性を築くことに対する戸惑い、新しい環境の生活に入らなければならぬ不安など、㉑へとつながります。ここでは、ある子どもが児童養護施設に入所に至るまでの生活の移り変わりの状況を、具体的にたどってみましょう。

○君は、X年にA県で生まれました。ところがX+2年Y月、父親の暴力(DV)が激しくなったため、母親は3人の子どもとともに家を出て、B県の親戚宅に身を寄せました。その2ヵ月後、C県にあるDV保護シェルターに入居しました。「a」その3ヵ月後、子どもが学校教育などのためにD市の母子生活支援施設に入所しました。生まれてから2年数ヶ月のあいだに○君は、出生地A県⇩B県親戚宅⇩C県保護シェルター⇩D市の母子生活支援施設と、生活の場を4カ所も変わる経験をしています。

そしてX+3年後、○君はD市内の保育所に入園しました。しかしその5ヵ月後あたりから、次第に保育所を休みがちになりました。心配した保育所と母子生活支援施設からの連絡を受けて、地域の児童福祉関係機関が関わり始めました。しかし母親の精神疾患が深刻化し入院となったため、X+3年と8ヵ月後、○君は兄弟と共にE市の児童相談所に一時保護となりました。X+4年、○君は、兄弟とともに児童養護施設に入所となりました。○君は生まれてから約4年のあいだに、児童相談所の一時保護所を含めて生活の場所を6カ所、移動しました。「b」、ようやく安定した育ちの場となった児童養護施設は、○君にとり6カ所目でした。

子どもが、このような外的な生活の環境の変化をAヒンカイに重ねてゆくうちに受けるもつとも深刻な傷つきは、生活の連続性を喪失することです。イギリスで長年、社会的擁護の

子どもの問題に取り組んでいる児童・思春期心理療法セラピストのヒンデル Hindle, D (2008) は、こうした子どもが生後まもない頃から生活の場の移行が繰り返されるだけでなく、親の離婚や失踪などによる別れや喪失などを幾重にも経験するうちに、喪失されたものや喪失した人を悲しむ感覚をまとめていくことがとても困難な心理的狀態におかれていることを、生活の連続性の喪失の深刻な心理的影響としてあげています。

このような生活の連続性の喪失を経験した子どもたちは「悲しみをまとめてゆく」(ヒンデル) ことの困難さだけではなく、心の準備が整わないうちに心の拠りどころにしている人を失う経験のあとに、**②** 生活に入ってからゆかなければならない困難にぶつかります。子どもがこのような困難を幾たびも重ねてゆくなかで、しだいに自分自身のことや自分の将来のことに希望も関心も薄れ、自分について考えることをやめってしまう心理的狀態へと追い詰められます。そうした心理的狀態は、のちに学ぶことや他者と関係を結ぶことにも関心も希望ももたなくなってしまうという深刻な影響を及ぼします。

(中略)

子どもが喪失を悲しむ感覚をまとめるのが困難な場合、心理的狀態に抱える問題は、生活の連続性の喪失にとどまりません。それは子どもにとり、思い出の連続性の喪失や剝奪の問題へとつながります。

思い出の連続性は子どもにとり、自分と共に自分の歴史を共有し覚えている親の存在により親の心の内部に抱えられながら情緒的な相互交流や調整の経験を重ね、それを基盤にして培われてゆきます。思い出の連続性は、子どもにとっては自分と一緒に自分の歴史や出来事、過ごした時間を共有し覚えていく親の存在によって子どもの心の内部に存在することができません。すなわち、子どもと共有した思い出が親の心の内部にも存在することによりはじめて、子どもも自分の思い出をつながりのあるものとして体験できるようになります。そして思い出を共有してくれる親との思い出や出来事をめぐって語り合ったり、これからのことを考えたりしてゆくというような情緒的交流や気持ちの調整の経験を重ねてゆくことで、子どもの心の内部の思い出の連続性が培われてゆきます。

「c」こうした思い出の連続性の喪失は、子どもとしての通常の経験の喪失となりません。このことは基本的に「ア」している両親やそれに近い重要な大人に、心のなかの気持ちのつながりとして自分の歴史を共有してもらった経験を喪失することをも意味します。

子どもは、通常一人ひとりが独自にもっている、自分が育ってゆく歴史にもなう「イ」な物語、自分だけの物語の連続性により、心の世界が育まれてゆきます。ところが、幼い時期から自分の育ちの自分だけの物語の連続性が遮断され、喪失してゆく経験を重ねていくことは、**③** 心の世界(心理的世界)を育む機会が奪われてしまうことになっていきます。

「d」こうした子どもが生活の連続性の喪失を経験しなければならない時というのは、同時に新しい環境に慣れてゆくことに「ウ」エネルギーを向けていくことにもなります。児童養護施設の子どものなかには、親の事情で突然に転居し、新しい環境に移り生活しなければならぬ経験をしている子どもが多くいます。心の準備もできないうちに、それまでの生活で交流したり繋がっていた友だちや大人との充分な別れの時間もなくなり新しい環境に入ってゆくことは、生活の連続性が遮断され、喪失を経験することにもなってゆきます。そ

のため、子どもは心のなかで喪失を悲しむ時間と空間がなかなか得られない生活をおくる悪循環に陥り、さらに傷つきを深める経験となつてゆきます。

児童養護施設の子どもは、入所に至るまでに多重の喪失や分離の経験を重ねています。しかしほとんどの子どもは、これらの喪失や分離の経験を未解決のまま、児童養護施設など新しい環境の生活に入つて行かざるをえません。このような状況のなかで、生活の連続性の喪失と同じく子どもにとり深刻なのは、養育の連続性の切断や混乱の問題です。

子どもは児童養護施設への入所に至るまでに、家庭から児童相談所の一時保護所を経ます。その多くは、児童福祉行政が関わる以前の家庭において、親の離婚や新しいパートナーとの生活、あるいは実親が行方不明になるなど、子どもの主たる養育者が変遷し生活状況が二点三点する事態を経験しています。

(中略)

養育の連続性の切断や混乱は、親の離婚や失踪などで主たる養育者が短期的に替わつてしまう場合だけではありません。(中略)主たる養育者が替わっていないにもかかわらず養育の連続性の切断や混乱が生じる状況は、児童養護施設の子どもの多くが経験してきています。

親が長期間にわたる精神疾患の問題を抱えている場合や、薬物依存やアルコール依存の問題をもつ場合、子どもは幼い頃から親の情緒状態の変動や混乱に曝され、^Bボーンロウ^Aされながら生活してきています。(中略)親は自分の世界を「エ」させ、予測のつかない不安と緊張をもちこむ人という思いを強めていきます。本来、子どもの心の内では、親の存在は安心して頼れる養育者として存在するのですが、こうした問題を抱えている親の場合には、安心できる親の存在を心のなかで育むことが難しくなつてしまいます。

(中略)

c.このように外的な環境があまりにも不安や恐怖に満ちていると、子どもは自らが置かれた困難に満ちた状況を正視することを避け、防衛的な態度で過ごすうちに、内的に考える機能が奪われてしまいます。それは心理的剝奪状況といふべき状態です。こうした環境による外的な剝奪状況が内的な剝奪状況を生じさせることを、精神分析の児童治療者であるウィリアムズ・G (1994) は「二重の剝奪」と捉えました。(中略)

大人に気づかれずに、子どもが自分について考えることを慢性的にやめてしまうと、子どもも考える心の機能は壊されてしまいます。自分自身には価値がないと感じると同時に、大人への不信と怒りを気持ちの深いところで抑え込んでいるため、自分を助けてくれる大人と出会ったときに、自分へ差し出された援助の手を拒んでしまい、自分を表現する拠りどころとして、^④纏^{まと}つてしまいます。(中略)ひいては問題行動や学校生活への不適応、学習の遅れという形となつて、ますます不利な状態へと追いつめられることとなります。こうした二重の剝奪状況を「オ」すること、それこそが児童養護施設の子どもに早急に必要に取り組みであるといつても過言ではありません。

池上彰編『日本の大課題 子どもの貧困―社会的養護の現場から考える』(ちくま新書 1113) 所収、池上和子「(第5章) 多重の喪失と分離―二重の剝奪状況に追い詰められる子ども」

より(一部省略・一部改変)

記16 傍線部Aの「ヒンカイ」を「漢字」で正確に書きなさい。

記17 傍線部Bの「ホンロウ」を「漢字」で正確に書きなさい。

マ29 空欄①に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- [1] 物理的環境の不備をととのえる問題
- [2] 法的な制度を見直すべき問題
- [3] 教育的な配慮へ移行する問題
- [4] 心理的な傷つきを経験する問題

マ30 空欄②に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- [1] その連続性が自然に再構築された
- [2] その準備を放棄することできない
- [3] その悲しみを分かち合い理解してくれる大人がいない
- [4] その喪失感を誰かとともに分かち合う

マ31 空欄③に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- [1] 美しいものに惹かれるような個性としての
- [2] 自分の育ちには自分の物語があるという
- [3] 道徳的な価値観を高めていく
- [4] 自分の家族には深い愛情があるという

マ32 空欄④に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- [1] 援助の手を衣のように
- [2] 破壊性を心の鎧のように
- [3] 援助への渴望を心の襞のように
- [4] 自尊心を心の澱のように

マ 33 文中の「ア」から「オ」に入る言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

〔1〕〔ア〕信用	〔イ〕クリア	〔ウ〕無定見に	〔エ〕震撼	〔オ〕無化
〔2〕〔ア〕信任	〔イ〕プライスレス	〔ウ〕無自覚に	〔エ〕破綻	〔オ〕克服
〔3〕〔ア〕信愛	〔イ〕シンプル	〔ウ〕無条件に	〔エ〕荒廃	〔オ〕確認
〔4〕〔ア〕信認	〔イ〕プライベート	〔ウ〕無感覚に	〔エ〕覚醒	〔オ〕捨象
〔5〕〔ア〕信頼	〔イ〕パーソナル	〔ウ〕意識的に	〔エ〕激変	〔オ〕遮断

マ 34 ～ 37 文中の「a」から「d」に入る最もふさわしいものを以下からそれぞれひとつずつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。同じ語の重複使用は認めません。なお、使用しないものがひとつあります。

マ 34	〔 a 〕
マ 35	〔 b 〕
マ 36	〔 c 〕
マ 37	〔 d 〕

〔1〕さらに 〔2〕なぜなら 〔3〕ところが 〔4〕また 〔5〕そして

記 18 傍線部Cでは、「外的な環境があまりにも不安や恐怖に満ちていると、子どもは自らが置かれた困難に満ちた状況を正視することを避け、防衛的な態度で過ごすうちに、内的に考える機能が奪われてしまい（心理的剝奪状況）」、「こうした環境による外的な剝奪状況が内的な剝奪状況を生じさせること」を「二重の剝奪」としているが、これらは具体的にどのようなことを言っているか、説明しなさい。解答は八〇文字以上、一〇〇文字以下の一文で記すこと。句読点も一字分とします。冒頭の一字下げは不要です。